

ハートフル ファミリー紹介



今回は、こころのビタミン研究所副代表理事の中野隆一さんを紹介します。一級建築士の中野さんはハイチの医療センターの設計を行ったり、何度もバングラデシュを視察するなど、こころのビタミンの重要な存在です。奥様は事務局長の中野京子さん。4人のお子さんのお父さんでもあります。

現地の人が喜んでくれるのが、私の大きな喜びです。

私がバングラデシュを訪問しようと思ったのは、ミトンさんとの出会いがきっかけです。ミトンさんの講演を聞き、とても素晴らしい方だと肌感覚、直感で分かり、応援したいと思い、栗原弘美さんに相談したところ、ハンガー・フリー・ワールドを知り、1999年頃にボランティアしたことが始まりでした。その後、NPO法人こころのビタミン研究所の発足に係り、毎年のようにバングラデシュを訪問するようになりました。自分がバングラデシュへ行く

事、与える事で現地の方々が喜んでくれるのは、私にとっての大きな喜びでした。

去年11月にオンライン開催した祝賀イベントで、バングラデシュが飢餓を終わらせたことを、多くの方達と共に祝ったことは感動的で、とても素晴らしく嬉しいことでした。

今回は新型コロナウイルスのために、実際に現地を訪問して祝い出来なかったのは寂しいことでしたが、近い将来に訪問し現地の方達と会えることを楽しみにしています。

これからも皆さんと次のビジョンに進めるように一緒に歩んでいきます。

4月16日(土)「ハートフルファミリーの集い」開催!

こころのビタミン研究所設立20周年を記念して、この20年の歩みを振り返ります。

2001年に設立されたこころのビタミン研究所は、昨年11月に創立20周年を迎えました。

今年のハートフルファミリーの集いは、この20年間の活動を振り返り、「私にとってのこころのビタミンとは」と題して、これまで活動をしてきた方々に体験や思いを語っていただきます。

20年間、様々なことがありました。一番記憶に新しいのは、昨年のバングラデシュ独立50周年記念「ビジョン2021」達成のお祝いイベント。そして屋台骨だった副代表理事鷹野えみ子さんを失うというつらい体験もありました。

みなさん、こころのビタミン研究所はどんな風に設立されたかご存じでしょうか?

代表理事の栗原弘美さんが毎年バングラデシュでセミナーを貢献し始めたのはどんな思いからだったのか? そしてNPO法人の中でもたった2.4%と言われる「都のお墨付き」である「認定NPO法人」に、なぜなれたのか? その一つ一つにドラマがあります。

ぜひたくさんのご参加お待ちしております!

ハートフルファミリーの集い

●日時: 2022年4月16日(土) 17:00~18:30

●会場: オンライン (Zoom) ●参加費: 無料

●申込方法: こころのビタミン研究所HP

(<https://www.cocoro-v.org/>)

または右のQRコードよりお申込み

ください。



●申込締切日: 4月14日(木)

●参加者: ◇ハートフルファミリー (賛助会員)

◇支援者 (これまで寄付くださった方)

◇上記の方から招待された方

どんな困難に直面しても、
私たちは活動を続けています。

ハイチ便り

(IAH代表 センティル・ラゲル)

医療センターの運営費を送金していただき、ありがとうございました。現在もハイチの政情不安は悪化するばかりで、昨年7月の大統領暗殺以来、大地震、タンクローリーの燃料爆発事故などが起こり、身代金目的の誘拐も頻発しています。

そんな中でも私たちは医療センターを運営し続けて、貧しい人々に医療を提供しています。現在、職業訓練センターの建築は一時中断していますが、一日も早く治安が安定して工事が再開できることを願っています。

どんな困難に直面しても、私たちがハイチに踏み止まられているのは、こころのビタミンの皆さんが私たちを常に気にかけて支援して下さるからです。心の底から感謝しています。

Vitamin News

ビタミンニュース NO.29 2022年4月号



COCORO NO VITAMIN
こころのビタミン
認定NPO法人 研究所

「バングラデシュ独立50周年記念イベント『ビジョン2021』の達成を祝して」開催!



「ビジョン2021」の達成を祝して乾杯。左から吉田真美理事、栗原弘美代表理事、栗原英彰理事、HFWバングラデシュ事務局長ミトンさん、スタッフのアンジュさん。



オンラインでお祝いする参加者たち

オンラインでバングラデシュの友と語り、祝い、感動があふれて。

昨年11月23日、「バングラデシュ独立50周年記念イベント『ビジョン2021』の達成を祝して」がオンラインで開催され、日本から91名、バングラデシュはダッカ、カリガンジ、ボダの3か所から37名、その他香港、カナダ、トルコからの参加者も含めて、合計132名が参加しました。

このイベントは、今から22年前の2000年に、HFWバングラデシュ事務局長のミトンさんが栗原英彰・弘美夫妻と共に「バングラデシュ独立50周年(2021年)までに自国の飢餓を終わらせる」という壮大なビジョンを創り、そのビジョンを見事に実現したことを皆で祝福するために開催されました。

このビジョン実現のためにミトンさんは懸命に活動し、2010年には「ビジョン2021」がバングラデシュの国家政策となり、国は奇跡的な発展を遂げ、今や中所得国となり、乳児死亡率も低下し、飢餓を終わらせた国になりました。

イベントの第一部は、吉田真美理事の司会、在日バングラデシュ人のアニスルさんの通訳で、栗原英彰理事はミトンさんとビジョンを創作した時の事を話され、栗原弘美代表理事はビジョン実現のために2003年から2015年まで毎年バングラデシュでセミナーを行った事や、これまでの支援について語られ、柗津都子理事は26年前のミトンさんとの出会いと、バングラ

デシュの発展と飢餓の克服を統計で示しました。

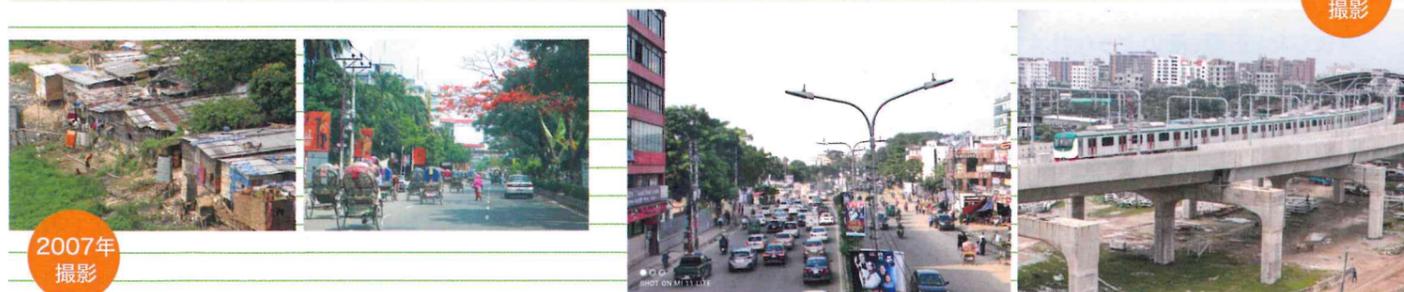
ミトンさんは「ビジョン2021」の実現のために行って来たこと、そして2042年までの新しいビジョンを語り、ミトンさんの片腕であるアンジュさんは女性が「鍵」であること、コミュニティ病院を設立し運営している事を話しました。香港からはケルビンさん、トルコからはマンナン駐トルコ大使もスピーチしてくださいました。

また、バングラデシュの2003年から現在までの発展を伝える映像、こころのビタミンの理事とバングラデシュ視察者の紹介、バングラデシュからの参加者の紹介がありました。

第二部はバングラデシュのカレーを食べながら、オンラインでの楽しい懇親会の後、全員が起立してバングラデシュの国歌を清聴しました。最後に栗原弘美代表理事が「ミトンさんと皆さんに出会えたことを神様に感謝します。ビジョン心理学での私たちの学びは、もう一人では生きないということ。どんな困難なところにも友達がいるということ。これからもビジョンを生きて一緒にビジョンを実現して行きましょう」と挨拶し、喜びと感動のうちに閉会となりました。

このイベントでの皆様の寄付金が約35万円になりました。ありがとうございました。

発展するバングラデシュ。首都ダッカの風景



2007年
撮影

2021年
撮影



〒108-0073
東京都港区三田3-1-5 第一奈半利川ビル3F
TEL 03-5765-1956 FAX 03-5765-1961
E-mail info@cocoro-v.org
URL <http://www.cocoro-v.org>
ブログ <http://ameblo.jp/cocoro-v>
Facebook 認定NPO法人こころのビタミン研究所

二人のリーダーが語る 「ビジョン2021」の誕生とその実現に至るまで。

Bangladeshから



こころのビタミン研究所設立以来20年にわたり継続してきた Bangladesh支援。
昨年11月23日のオンラインによる祝賀イベントは、ビジョンの力を改めて私たちに教えてくれました。
2000年に創作した「2021年までに Bangladeshの飢餓を終わらせる」という壮大なビジョンはなぜ実現できたのか、「ビジョン2021」の源であり、その実現を牽引してきた Bangladeshと日本のリーダーが同じ質問に、それぞれの視点から答えてくれました。

日本と Bangladeshのリーダー、※ Q)は質問、M)はHFW Bangladesh事務局長のミトンさん、弘)はこころのビタミン研究所代表理事の栗原弘美さんとミトンさん。

Q1 2000年に「 Bangladesh独立50周年(2021年)までに自国の飢餓を終わらせる」というビジョンの誕生とその時の想いをお聞かせください。

M) 私は貧しい農村で生まれ、10人兄弟姉妹の内5人が飢えて亡くなりました。貧しい生活は続き、成長期もいつも空腹で勉強に集中できませんでした。

ですから、私はずっと飢えや貧困のない世界を夢見て、その実現に役立つ活動をしていました。1995年にはニューヨークで開催された地球こども会議(Global Youth Conference)に参加して、主催者の津都子さんと出会い、世界中の同じ夢を持つ仲間とつながり、私の夢は大きく広がり、より熱心に活動をはじめました。

そして、私は2000年8月に真のビジョンを見出したのです。栗原夫妻に「あなたのビジョンは何ですか？」と聞かれ、「自分の国の飢餓をなくすことです」と答えました。すると「いつまでに？」と問われ、「わが国が独立50周年を迎える2021年までに」と答えました。「ビジョン2021」が生まれた瞬間でした。栗原夫妻が「あなたのビジョンを応援します」と言ってくださり、私はとても嬉しく、自信満々で帰国しました。

弘) 2000年8月、田町のインドカレー店での光景をありありと覚えています。私はもっと個人的なビジョンを予想していたので、ミトンさんが国レベルのビジョンをはっきりと答えたと驚きました。正直、そのような壮大なビジョンが実現するとは思えませんでした。ミトンさんの真剣さ、ゆるぎない話しぶりは、私たちに一生懸命応援しようと思わせるものがありました。

2003年5月の歴史的写真。初のVLPセミナーで、栗原弘美先生とゲストを紹介し、「ビジョン2021」の説明をするミトンさん。写真右から栗原弘美代表理事、元外務大臣チョードリー氏、経済学者アタウル・ラハマン氏、全国紙の編集長モチウル・ラーマン氏。

Q2 このビジョンを実現するためにどのような行動を起こしたのですか？

M) 帰国後、私は親友のアングジュとチュヒンとこのビジョンを分かち合いました。二人は賛同し、一緒に仕事をしてくれることになりました。私はHFW(ハンガー・フリー・ワールド) Bangladeshの事務局長として、カリガンジの農村に多目的センターを作り活動を開始しました。そこでは、若者や女性にコンピュータや縫製の技術指導を行い、また小学校も併設しました。まだ十分ではないと思っていた時、弘美さんからセミナーを提案されたのです。

弘) こころのビタミンは、まずミトンさんのプロジェクトに支援金を送り始めました。ですが、私はビジョン実現のためにはお金の支援だけでなく、人々の意識を変えることが欠かせないと考えていたので、ミトンさんにセミナーの提案をしました。ミトンさんは即座に「僕もそう思います。意識を変えることがお金をもらう以上に大事だと思います。ぜひセミナーをやってください」と言ったのです。彼はビジョン心理学を全く知らないにもかかわらずです。一目ぼれのような、お互いに心が通じ合った瞬間でした。



VLPセミナー風景



男性と女性が対等に会話するVLPセミナー。

Q3 2003年5月、 Bangladeshの首都ダッカで、イスラム圏で初めて、ビジョン心理学セミナーを行いました。

M) 私はこのセミナーを「 Bangladeshの未来のためのビジョン、リーダーシップ、パートナーシップ(VLP)」と名付けました。初回の参加者は70名で、全国紙「デイリープロムトア」の編集長、経済学者のアタウル・ラハマン氏(後の中央銀行総裁)、元外務大臣チョードリー氏(後のハシナ首相顧問)も参加していました。

弘美さんは2015年まで毎年このセミナーを首都ダッカで開催してくれました。参加希望者は年々増え続け、500~600名の中から150名ほどを選ばなければなりませんでした。

私は「ビジョン2021」を社会に浸透させるべく、新聞に投稿したり、ポスターを作ったり様々な活動をしましたが、2005年からは「ビジョン2021フォーラム」と名付けて政策提言キャンペーンを開始しました。このフォーラムの初代代表はモサンドマンナン氏(現駐トルコ大使)で、私は幹事長を務めています。このフォーラムの尊敬すべき有力者の多くが、弘美さんのセミナーの参加者です。

弘) Bangladeshでの初めてのセミナーは、文化の違いがありました。イスラム圏なので、女性は目だけ出してサリーで体をおおい、男性とは2m以上接近しない、グループになっても男性だけが話して、女性は一言も話さない。また、一日に数回、お祈りの時間が必要など色々なことがありました。ですが、セミナーの中でダイヤードをやることで、男性と女性が対等に話すという、今まで男女間で起きたことがないことが起こったのです。翌年行った時には、全然違っていました。参加者はセミナーだけ

ら、男女が親しくしても安全だと考えるようになりました。

毎年 Bangladeshを訪れるたびに、その変化は目覚ましく、 Bangladeshの習慣では、男女と一緒に食事をしないのですが、新しくできたファストフード店には男女と一緒に食事をするポスターが貼られたり、リキシャが車に代わって行ったりと驚くばかりでした。セミナーは、 Bangladeshの文化を変えることを加速化したと思います。

Q4 毎年日本で開催される国際トレーニングに、ミトンさんやアングジュさんなど Bangladeshの方々を招待しました。

M) 私も、アングジュも、他のボランティアも日本の国際トレーニングに参加できたことは「ビジョン2021」を進めるために非常に役立ちました。2009年には、大変影響力のあるBTVニュース編集長のシャルカールさんも参加しました。ビジョン心理学セミナーは、パワフルで心に響く変革をもたらし、ビジョン実現に向けて素晴らしいツールだったことをお伝えしたいです。

弘) ミトンさんやスタッフの方たちを国際トレーニングに招待して、日本や各国の支援者の応援エネルギーをいっぱい受け取ってもらいました。また、日本や各国の寄付者のみなさんにミトンさんの人となりを知ってもらったり、寄付金の使われ方を知ってもらうこともできて、よかったです。

来日時には、こころのビタミンの理事たちとのミーティングを持ち、プロジェクトの優先順位を明確にしました。特に教育に資金を使い、先生の地位を向上させ、子供たちが楽しく学べる学校にすることに貢献できたと思います。

祝賀イベントに参加して

ビジョンを叶えて皆で祝うって素晴らしい!

たった1人の青年の夢が、その時は叶うかどうか分からない夢が、いろんな方々の力づくで達成されてゆくプロセスに感動しました。凄く純粋にエネルギーを注ぎ込むこと、継続することの力に励まされました。ビジョンは生き方を変えることが、凄くリアルに伝わってきました。 Bangladeshが「ビジョン2021」を叶えたことが、今度は私の希望になりました。みんなで叶えてみんなで祝うって、素晴らしいですね。素晴らしい機会をありがとうございました。(HF会員 森田知子)

皆で心をつなげたからこそそのビジョンの実現

感動的な体験でした。みなさんがビジョンに向けて心をつなげてくれたからこそ、そのビジョンの実現なのだということを感じ取れました。たくさんの素晴らしいリーダーたちがこのプロジェクトに参加して得られた達成感ののだと感じました。そして、一番感じたことは、ビジョンを生きて、とても楽しいことなんだということでした。ありがとうございました。

(HF会員 横井晃子)



ボダのWEH(ウィメン・エンディング・ハンガー)の年次総会。パワフルな笑顔の女性たち。



カリガンジの学校で元気に楽しく学ぶ子供たち。

Q5 「ビジョン2021」が実現した要因は何だと思えますか？

M) 私は2つの要素がうまく機能し、役に立ったと考えています。一つはビジョンそのものと、もう一つはリーダーのエンパワメント(弘美さんによるVLPセミナー)です。ビジョンは人を動かし続け、癒しのワークショップやセミナーは、ビジョンの実現のために働く自信と意欲を生み出します。

「ビジョン2021」の推進に向けて様々な活動が起こりました。2010年にはハシナ首相率いる政府は、当時アジアの最貧国と言われていたわが国が、10年後の2021年には「中所得国」となること、2001年には42%を超えていた貧困率を17%まで低下させるなど「ビジョン2021」を国の政策に掲げたのです。そして、わが国は奇跡的な発展を遂げました。一人当たりのGDPは2000年には46,000円でしたが、2021年には235,000円と5倍にもなりました。2019年度のGDP成長率は8.15%と過去最高を記録し、世界179か国中41位。見事、中所得国になりました。

飢餓存在国の目安は乳児死亡率が50以上とされています。わが国は2000年には乳児死亡率が63.4でしたが、2018年には24まで低下しました。つまり、私たちは飢餓を終わらせたのです！

「ビジョン2021」の実現は、「飢餓をなくして幸せな未来を創る」という共通のビジョンの下に、一人ひとりが自分の持ち場で力を発揮したことの集大成なのです。

弘) 要因はいくつかあると思いますが、まず、ミトンさんのリーダーシップのもとに、現地の方々が行動し、実現したことだと思います。ミトンさんは先見の明があり、支援されたお金を有効に活用したこと、ビジョン心理学セミナーによる人々の意識の変化が両輪となっていたと思います。

男尊女卑の考えが根強い社会で、ミトンさんは女性に資金を貸し付けたり、貯金を勧めたり、女性の力づけを行い、それを男性が応援するという文化を作りました。また、有機農法を取り入れるなど、ミトンさんのリーダーシップがビジョン実現の大きな要因だと思います。私たちもミトンさんだからこそ、全面的に応援し続け、コミュニケーションをとり続け、パートナーシッ

プを築くことができました。

また、ミトンさんが熱心に啓蒙活動を継続したこと。ポスターや置物など、いたるところに「ビジョン2021」が提示され、ビジョンが実現した時の情景を書いた文章があったり、お芝居にしたり、私たちにも毎回「VISION 2021」と書かれた盾や牛の絵をお土産にしてくれるほどでした。

「鍵」となったのは、ミトンさんが名付けたセミナーの名前です。「ビジョン、リーダーシップ、パートナーシップ」この3つが大事なのだということ。まさに、ビジョン心理学のエッセンスをパッと掴んだのです。

そして、バングラデシュの飢餓を終わらせるために、政府高官、経済学者、大学教授、マスコミ人など影響力のある方々をセミナーに招き、心を動かしたこと。日本人がわざわざやって来て、自分たちの国の飢餓をなくそうと頑張ってくれているのだから、自分たちも立ち上がらなくてはいけないという気持ちになったのだと思います。また、セミナーには、有力者だけでなく地方から来た先生たちや一般の女性たちなど様々な人が参加して、集合意識が上がって行きました。

文化を変えていく、無理矢理に変えるのではなく、彼ら自身が文化を発展させていく、目覚めていくのをサポートするようだったと思います。一つ一つがどうなるか分かっていただけではなく、自然発生的に起きていく感じでした。改めて振り返ると、つくづく恩恵だなと思います。

Q6 「ビジョン2021」達成のお祝いのイベントを終えて、今の心境を聞かせてください。

M) こころのビタミンの皆さんに喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。ただ、私たちのビジョンを強く応援してくれた鷹野えみ子さんに会えなかったことはとても残念でした。中野隆一さんも毎年バングラデシュに来てくれて、兄のように私を信じ、鼓舞してくれました。私たちを応援してくれた香港、台湾、シンガポール、その他多くの国々の友人たちに心からの感謝を伝えたいと思います。

この祝賀イベントの成功に刺激を受けて、私は今、新しいビジョンに燃えています。

弘) この20年間で、こころのビタミンからバングラデシュへの支援金は約6,600万円を超えました。支援者を代表して、毎年バングラデシュを訪れることで、支援の成果を肌で感じることができ、それを励みに頑張ることができたと思います。

2015年にダッカでテロ事件が発生して以来、バングラデシュに行けずにはいましたが、それでもこんなに頑張ってくれていたのだと、本当に立派だと感動しました。皆さんは私を「女神」とか「天使」と言ってくれますが、それは私自身というより見守ってくれる存在という意味だと思います。人はそのような存在がいてこそ頑張れるのですから。

バングラデシュの皆さんには、自分たちがより豊かで幸せになり続けてほしいと願っています。同時にリーダーとして、飢餓を終わらせることは可能だということを伝えてほしいと思います。ミトンさんが、まずはアジアから、その国のリーダーや核になる人々を力づける存在になってくれることを希望します。

Q7 新たなビジョンを聞かせてください。

M) 私たちの新しい取り組みは、「ハッピー・マザー・プロジェクト」です。私は母親たちの幸せのために働きたいのです。

このプロジェクトは、少女の教育のための奨学金の提供、女性自身が収入を得るためのスキル習得への支援、安全な出産のための医療サービスの提供、安全で栄養価の高い食料生産の知識の向上、ビジョンに勇気づけられたしっかりしたコミュニティの構築、責任感のある社会人育成のための若者支援などを意図しています。

女性こそが豊かさ喜びの「鍵」であり、母親たちを守り、幸せにすれば、世界は自ずと幸せになるはずですから。

弘) ミトンさんの新しいビジョン「ハッピー・マザー・プロジェクト」を応援したいです。女性、女性性に価値を置いていることに大きな意味があると思います。

次回、バングラデシュでセミナーを開催する際には、近隣諸国の人にも参加してもらい、ミトンさんがどのようにして飢餓を終わらせたかをシェアしたいです。来年頃には実現できるのではと思っています。

祝賀イベントに参加して

新たなビジョンは「ハッピー・マザー・プロジェクト」

(HFWバングラデシュ アンジュ)

「ビジョン2021」は私たちを団結させてくれました。農村の人々もこのビジョンによって団結し、自分たちの地域の飢餓をなくすために全体的な取り組みをするようになりました。ダッカとカリガンジで開催された弘美先生のVLPセミナーに、農村部の男女が大勢参加しました。弘美先生は彼らにとって「天使」なのです。2008年にセミナーに参加したカリガンジの女性は家族や地域への貢献が認められ、2021年に首相から国家賞を受賞しました。彼女の成功は、多くの例の一つです。

11月23日、私は地域の人々と一緒に成功を祝いました。日本からの参加者、「ビジョン2021フォーラム」のリーダー、参加者みんなと強い一体感を持ちました。オンラインで食べ物をシェアするのはとても楽しかったです。「私たちは成功したのだ！」という喜びと一緒に味わうことができました。こころのビタミンの皆さん、一緒に祝ってくださいありがとうございます。

新たなビジョンは「ハッピー・マザー・プロジェクト」とヒーリングセンター「ハピネスセンター」を創ることです。食べ物の飢餓をなくすこと以上に、魂の飢餓はますます大きくなり、女性たちは助けを求めています。

私はみんなに困っている友人を助けようと強く呼びかけます。一緒に頑張りましょう。幸せになりましょう。みなさんを愛しています。



祝賀イベントに参加して、非常に励まされました。

(ルビ・ダス ダッカ在住)

「ビジョン2021フォーラム」は、バングラデシュの建国50周年記念日まで、飢餓と貧困のないバングラデシュを実現することをビジョンにしてきました。バングラデシュの人々を心理的に健康にし、より良い未来へのビジョンを育むために、栗原弘美さんは「ビジョン2021フォーラム」のメンバーにビジョン心理学のワークショップを開催してくれました。私はそのうちの6回に参加しました。

私は「バングラデシュ独立50周年記念イベント」に参加し非常に励まされました。とても良く構成されていて、国歌斉唱、スピーチ、ビデオ、年度別の開発事業の写真など、皆さんの貢献がよくわかる内容でした。バングラデシュの発展に多大な貢献をしてくれた日本の友人たちに深く感謝しています。